

長崎出島支部「8月例会」報告 2016年8月17日(水)

テーマ：「江戸時代の商人から学ぶ心の経営」

報告者：合同会社ねこのて 中尾 由花 会員

文責：加瀬 和利



今回は、江戸時代の素晴らしさと訪問介護の経営について中尾さんに報告をしていただきました。介護業界は、1年未満の離職率が一番多い業界だそうです。しかし中尾さんの社員さんは離職率0%。創業からのメンバーが一人も辞めず今も働かれています。平成22年7月、実母が合同会社ねこのてを設立し、中尾さんは訪問介護ヘルパーステーションねこの管理者に就任されました。平成23年より星槎大学に入学し共生科学を学ぶ中で江戸時代の素晴らしさを知り、現代に生かせるのではないかと感じました。



近年、地球環境の崩壊や社会環境・戦争など様々な問題が起こっている中、江戸時代の循環型社会では、①地球環境との共生：リサイクルをし、ゴミをひとつも出さない社会。②社会との共生：適所適材で人の役に立ち、ニートのない社会。③地域との共生：ルールに従い戦争のない平和な社会。であったそうです。

また「働く」という言葉は、江戸時代に作られた言葉で、「傍を楽にする」という意味があり、一日の三分の一以上は、世のため人のために使うという意識が江戸時代にあったとの事です。中尾さんの会社では①活力朝礼で「じぶんで決める」今日何を着るか、今日だれに話すか、今日何を大切にするか・・・など全て自分で決める。という文章を社員さんと唱和されています。介護施設利用者の方にも、社員さんにも自分で決めて行動する事を教育されています。②会議の際、自分たちで考え、意見を出し合

い、ルールを作る。経営者からの一方的な指示ではなく、みんなで意見を出し合い決めた事はルールを守れる。③自己評価と他者評価を実践する。チャレンジシートという書類を使い、半期に1回、社員さんは自己評価をし、中尾さんも社員さんの評価をする。社員さんと中尾さんの評価の差を面談し確認していく。④経営理念を多くの方に伝える。社員さんはもちろん、講演や様々な場所で経営理念を伝える。などを実践されており、経営者と社員さんの距離が近く、自分で考え行動する組織を構築され、働きやすい環境を作る事が離職率0%につながっていると思いました。今後は、幼稚園と老人ホームの融合や、福利厚生充実、介護業界の質の向上を展望にされていらっしゃる。自分の会社だけ儲かればいいという時代は終わり、これからは共に生きる「共生」の時代です。という言葉が心に残る報告でした。

★★★★★★★★★★★★★★★★

「第23回 経営フォーラム」

2016年10月6日(木)

記念講演…シーハットおおむら さくらホール

